全日本学生バドミントン連盟

所 属 各 位

全日本学生バドミントン連盟

会 長　宮 崎 重 勝

　　　　　　　　　　　　　　　　　競 技 部

　令和２年度第71回全日本学生バドミントン選手権大会（全日本インカレ）については、今般のコロナ禍の社会状況によりその開催に関して現時点では規模縮小も含めて未確定な状況にあります（8月31日に開催可否決定）。

加えてトーナメント組み合わせ等の準備作業についても、昨年度団体戦が台風19号の影響により中止、また東西インカレや各地区学連主催のリーグ戦ならびに選手権大会も中止という極めて厳しい状況下で、通常とは大きく異なる変則的な対応を求められることになります。

　しかしながら、仮に開催と決定された際にタイトなスケジュールの中であっても粛々と準備を進めて可能な限り遺漏なく大会を運営するためには、今まで経験したことがない極めて変則的な対応を余儀なくされるからこそ、迅速に基本的事項を完成しておく必要があると考えます。

ただし、競技部としては一定の競技レベルを保持して大会が実施できるだけでも可とする、bestよりbetterを目標に対処せざるを得ないと考えております。ご理解の程よろしくお願いいたします。

　以下に「令和2年度全日本学生バドミントン選手権大会 組み合わせ基準

（特例）」を全日本学生バドミントン連盟として主管学連（中部学連）とも情報交換の上作成しました。

　なお、本案は大会の規模縮小も想定して、その際にも即応できるように可能な限り単純化するとともに出場選手カテゴリーも3区分にしました。

趣旨：①昨年度インカレ団体戦トーナメント並びに個人戦戦績結果を最大限活用する（唯一の直近客観的データ）。

②全日本学連が按分・配分した推薦枠数に沿って、団体戦の推薦枠に推薦する大学は昨年度実績等から「地区学連」が選出する。個人戦の推薦枠に推薦する選手は昨年度実績等から推薦枠に該当した「大学」が選出する。

③東西インカレ及び地区大会の代替として推薦枠を拡大し選出に幅を設ける。

以上

令和2年度全日本学生バドミントン選手権大会 組み合わせ基準（特例）

2020年7月13日

全日本学生バドミントン連盟

全日本学生バドミントン選手権大会は、現行の公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第５章第28条～32条を適用し、シードは団体戦・個人戦それぞれ原則として次の通りとする。

【団体戦の組み合わせ基準】

今年度の団体戦組み合わせに関する特例処置として、以下の１）～３）とする。

理由：①前年度、台風19号の影響により団体戦が中止になったこと。

　　　　　　②今年度、新型コロナウイルスの影響により東西インカレ及び各地区予選会が中止になったこと。

１）ベスト８までは前年度（2019年度）のトーナメント（シード）をそのまま移行する（2019.2.23.全日本総会決定）。（以上：1.①～③）

２）地区推薦は従来の推薦枠の他に東西インカレの代替として特例推薦枠を設ける。

３）各地区学連は割り当てられた全体推薦枠を基に、前年度の東西インカレ及び地区学連大会戦績を参考にして当該地区所属大学（1-8シードに含まれていない大学）を特例推薦枠から従来の推薦枠へランキング順に選出する。（以上：1.④及び2.）

１．次の①～④により、１－16までシードする。ただし、準決勝及び準々決勝が昨年度と同じ対戦は避けるものとする。 その際、不都合が生じた場合は高ランキングから配慮する。

①前年度本大会のランキング２位以内をランキングによりシードする。 （適用済）

②前年度本大会のランキング４位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準決勝の対戦は避ける。（適用済）

③前年度本大会のランキング８位以内を抽選によりシードする。 ただし、昨年と同じ準々決勝の対戦は避ける。（適用済）

④その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会のランキングにより抽選でシードする。 東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。

④特例推薦として、前年度、各地区出場校数の比率で、８校の各地区推薦出場枠を按分し、各地区ランキングの高い順に８校内の抽選で16までシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。（④東西インカレの代替）

ただし、各地区出場校数には2.の各地区推薦出場校数は含まれない。

※④の各地区出場校数＝各地区全出場校数－2.の各地区推薦出場校数

※特例推薦枠数（男子）：８校；北海道：0校・東北：0校・関東：5校・中部：0校・

　　関西：3校・中四：0校・九州：0校

（女子）：８校；北海道：0校・東北：0校・関東：4校・中部：1校・

関西：3校・中四：0校・九州：0校

２．地区推薦により出場する大学の枠数は以下の通りである。（従来通り）

※従来推薦枠数（男女）：16校；各2校（北海道・東北・中部・中四国・九州）

　　　　　　　　 　　　　　 　　各3校（関東・関西）

３．各地区から地区推薦により出場している16大学のうち、各地区下位9校（関東・関西；各下位2校、北海道・東北・中部・中四国・九州；各下位1校）から抽選により8校を8シード下に順次入れる。（従来通り）

４．以降自動抽選。（２.の地区推薦大学）

※1回戦は、東西の対戦となるように考慮する。また、昨年度と同一対戦は避ける。

※4ブロック内での地区バランス、特に参加校数が少ない地区のバランスを優先的に

　考慮する。

※関東と関西の地区バランスは、極端な偏りを除き原則として考慮しない。

※参考（従来）団体：32校

；本戦　東日本インカレ8校・西日本インカレ8校

　　　　　　 ；推薦　各2校（北海道・東北・中部・中四国・九州）

　　　　　　 　　　　各3校（関東・関西）

※事前資料として、特例推薦枠の各地区学連への按分数は参加申し込み締切日前に（7月末迄予定）各地区学連に公開する。

※各地区学連は、ランキング８位以内該当校（１.①～③）、特例推薦枠校（１.④）、

地区推薦枠校（２.）をランキング順に取りまとめて参加申し込みをすること。

【個人戦の組み合わせ基準】

　今年度の個人戦組み合わせに関する特例処置として、昨年度（2019年度）全日本インカレ個人戦の戦績を最大限活用する。

理由：今年度、新型コロナウイルスの影響により東西インカレ及び各地区予選会が中止になったこと。

１）前年度本大会戦績ランキングを８シードから32シードまで拡大して適用する。

２）1-32シード決めに前年度本大会戦績ランキング64以内を含めて、この範囲の上位選手に32シード入りの機会を与えることによって東西インカレの代替とする。

（以上：1.①～⑨）

３）地区推薦は従来の推薦枠の他に地区予選会の代替として特例推薦枠を設ける。

特例として、地区推薦枠数を拡大することによって地区推薦選手の選考に一定の幅を持たせる。

４）各地区学連は割り当てられた全体推薦枠を基に、前年度の全日本インカレ・東西インカレ及び地区学連大会戦績を参考にするとともに、新入生への配慮（前年度Ｉ．Ｈ．ランキング8位以内）を交えながら当該地区所属大学に種目毎の出場者（組）の枠数を割り当てる。当該大学は割り当てられた枠数の出場選手（1-32シードに含まれていない選手）をランキング順に選出する。

　　（以上：2.）

１．次の①～⑨により、１－32までシードする。 ただし、準決勝及び準々決勝が昨年度と同じ対戦は避けるものとする。 その際、不都合が生じた場合は高ランキングから配慮する。

①前年度本大会のランキング２位以内をランキングによりシードする。

②前年度本大会のランキング４位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準決勝の対戦は避ける。

③前年度本大会のランキング８位以内を抽選によりシードする。 ただし、昨年と同じ準々決勝の対戦は避ける。

④直近の日本ランキング16位以内をランキングによりシードする。

⑤その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会の8位以内をランキングによりシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。

⑤前年度本大会のランキング16位以内をランキングによりシードする。

⑥直近の日本ランキング32位以内をランキングによりシードする。

⑦その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会の32位以内をランキングによりシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。

⑦前年度本大会のランキング32位以内をランキングによりシードする。

⑧直近の日本ランキング64位以内をランキングによりシードする。

　　⑨前年度本大会のランキング64位以内からランキング順に32シード枠へ繰上げる。

* **組み合わせ会議の縮小・短時間を旨とする方針であれば、ランキング順にシードすることが望ましい。②③以外はデータが完成されているので客観性を保ちながら主管学連だけで１原案を作成することが可能である（アサミソフト：大会結果報告）。**

※昨年度戦績ランキングデータ（卒業生削除）は事前に各地区学連に確認する。

※事前資料として、暫定的に確定した32枠の選手名簿は参加申し込み締切日前に（7月中予定）各地区学連に公開する。ダブルスの場合、参加申し込み時点で名簿外の選手との新たな組は1-32シード決から除外する。

* **下線部分について、全日本ミックス組み合わせ基準のように新たにポイント制を適用することも考えられるが、１）現行の全日本インカレ組み合わせ基準では「ダブルスのポイント制」の導入が未決定であるため、ダブルスランキングの基本的基準について過去の大会とポイント制との整合性がとれないこと、２）事前データ作成作業に一定の時間を要すること（主管学連）、等を勘案すると、今回は従来通りの方法を採用することが妥当である。ただし、来年度のインカレに向けて「ダブルスのポイント制導入」を議論することは重要である。３）実力ある新ペアは地区推薦枠で出場可能である。**

２．地区推薦により出場する選手の各地区の種目毎の枠数は以下の通りである。

※特例推薦枠数：32名；東日本16名（北海道3名・東北3名・関東10名）

　　　　　　　　　 　 西日本16名（中部4名・関西6名・中四国3名・九州3名）

※従来推薦枠数：32名；東日本16名（北海道3名・東北3名・関東10名）

　　　　　　　 　 　西日本16名（中部4名・関西6名・中四国3名・九州3名）

３．各地区から推薦により出場している選手のうち、各地区の推薦人数の比率を基に、

下位から「関東６名・関西４名・中部２名・北海道・東北・中四国・九州各1名の

計16名」を選出し、第1から第8のシード下に入れる。シード下の位置は抽選により決める。シード下の極端な不都合は、抽選者間で入れ替える。（従来通り）

４.以降自動抽選（2.の地区推薦選手）

５．日本バドミントン協会の要請で各種大会に派遣される場合及びその他の特別な理由により、当該選手が上記シード基準①～⑨に適応されない場合は、そのシードについて考慮する場合がある。

★シングルスにおいては、ダブルスのパートナーを等分に分けるのが原則であるが、

事情によっては相異なる1/8に組み入れることまで認める。

★1回戦は、東西の対戦となるように考慮する。また、昨年度と同一対戦は避ける。

★4ブロック内での地区バランス、特に参加校数が少ない地区及び参加人数の少ない

大学のバランスを優先的に考慮する。

★関東と関西の地区バランスは、極端な偏りを除き原則として考慮しない。　　以上

※参考（従来）個人：96名+α；前年度Ｂ８以内・日本ランキングＢ32以内

；本戦　東日本インカレ32名・西日本インカレ32名

；推薦　東日本16名（北海道3名・東北3名・関東10名）

　　　　　　 　 　　西日本16名（中部4名・関西6名・中四国3名・九州3名）

※組み合わせ会議に関しては、社会状況を鑑み極力少人数で構成するとともに時間短縮を図る（可能な限り自動シャッフルを活用する）。

※団体戦参加申込書は1.①～④と2.に該当する全大学について記載する。

※個人戦参加申込書・選手名簿は1.①～⑨の32枠と2.に該当する全選手を記載する。

※従来の東西インカレ及び各地区選手権大会の戦績一覧は1-32シード選手名簿と各地区推薦者名簿に変更する。